

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(3月28日～4月3日)

2022年4月22日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 欧州復興開発銀行(EBRD)、ミンスク・モスクワ両事務所の閉鎖を発表(3/28)
- 出入国に関する制限措置の撤廃(4/1)
- チハノフスカヤ民主勢力代表のエストニア訪問(4/1)

【ルカシェンコ大統領動静】

●グエン・ヴァン・グ駐ベラルーシ・ベトナム大使との会談

大統領は要旨以下を述べた。

- ・ベラルーシの友好国であるベトナムは、前世紀に侵略者と戦って撃退し、現在の平和と発展を勝ち取った。
- ・ベトナムとともに戦い、助けたという両国関係における歴史的記憶を大切にすること。
- ・プラグマティズムは、ベラルーシ人にもベトナム人にも共通する特徴。経済分野での両国の協力関係を進展させる所存。

(3/29 大統領府)

●メリニチェンコ露ペンザ州知事との会談(於ミンスク)

大統領は要旨以下を述べた。

- ・今は困難な時代であるが、大きなチャンスの時でもある。この数か月、もしかするとこの1年半で我々は正気に戻った。我々は、自分を救い、守ることが出来るのは自分自身のみであって誰も必要とはしていないことを理解した。おそらく、今ではロシアも、これまで以上にこのことを実感しているであろう。
- ・2020年に西側はベラルーシで、ウクライナのマイダン革命のシナリオを実施しようとしたが失敗した。選挙には何ら違反はなかった。
- ・2020年の出来事を踏まえ、憲法改正のための国民投票を行わないよう提案する声も少なからずあったが、自分(大統領)はそのようなことには断固反対だった。国民投票を実施したが、実に静かに行われ、西側も何も言うことがない。

(3/31 大統領府)

●ベラルーシ・ロシア両国首脳電話会談

(1)ベラルーシ大統領府発表

- ・ルカシェンコ大統領とプーチン露大統領は、両国民の一致の日を翌日に控え、相互に祝意を述べた。
- ・二国間関係進展の現状と見通しにつき協議。
- ・ウクライナを巡る状況についても別途話し合われた。
- ・連携にかかるその他の問題も取り上げられた。

(2)露タス通信

- ・プーチン露大統領は、ドンバス防衛に関する特別軍事作戦の進捗状況につき知らせるとともに、ロシア・ウクライナ両国代表によって進行中の和平交渉につき評価を述べた。

・ルカシェンコ大統領から改めて、ロシアの行動に対する支持が表明された。

(4/1 大統領府、Zerkalo、露タス通信)

●「ベラルーシ・ロシア両国民一致の日」に寄せた両国大統領の祝辞

- ・両大統領ともに、制裁を含む外圧に言及し、その中で両国の統合深化の重要性を指摘。
- ・ルカシェンコ大統領は、連合国家プログラムの採択を、両国の産業・貿易面における事実上対等の条件の確保として言及。
- ・プーチン露大統領は、国際舞台における両国の連携、両国の防衛能力の強化、輸入代替政策及び科学技術分野における両国の協調に特に言及。

(4/2 大統領府、在ベラルーシ・ロシア大使館)

【外交】

●マケイ外務大臣とラヴロフ露外務大臣の電話会談

(1)ベラルーシ外務省発表

- ・ウクライナ情勢に関する意見交換を実施。
- ・両国外務省を通じて予定されている行事を通じた連携に関する問題も協議。

(2)ロシア外務省発表

- ・ウクライナにおけるロシアによる特別軍事作戦の進捗状況とロシア・ウクライナ両国間の和平交渉を含め、地域において差し迫った問題につき意見交換。外交分野における緊密な協力を強化し、西側による制裁の圧力に共同で対抗することで合意。

- ・二国間協力及びロシア・ベラルーシ連合国家の当面の問題の他、コンタクトの予定や集団安全保障条約機構(CSTO)を通じた行事についても協議。

(3/29 ベラルーシ外務省、Zerkalo、ロシア外務省)

●リトアニアは、ベラルーシを敵対国家一覧に掲載

ベラルーシと関係がある企業を国家調達に関する入札からの排除や、締結済みの契約破棄が可能に。

(3/30 リトアニア政府、BPN)

●米欧の外交当局がウクライナ・ベラルーシ情勢につき協議(3/30、於ワシントン)

- ・ヌーランド米國務次官とモラ欧州対外活動庁事務次長は、ロシアによるウクライナ侵略を終わらせるための米欧の戦略的目標及び政策協調につき協議。
- ・会談では、ベラルーシ国内外の民主勢力に対して現在実施中の、人権の擁護と推進に関する支援の取り組みについても取り上げられた。

(3/30 米國務省、BPN)

●オーストラリアが、ベラルーシ・ロシア両国からの輸入品に 35%の追加関税を導入

(3/31 オーストラリア政府、Zerkalo)

●バチエレ国連人権高等弁務官はベラルーシ当局に対し、政治犯の釈放とベラルーシ国民に対して行われている犯罪行為の捜査を呼びかけ

(4/1 BPN)

●ドイツは、ロシア・ベラルーシ両国の税務当局との情報交換を中止

(4/1 BPN)

【内政】

●当局から民間の団体・一般市民に対する強制捜査・逮捕等

3月28日から4月3日にかけての動向

- ・3つのメディアが「過激主義」に認定され、1つのニュースサイトがアクセス禁止に。
- ・2020年の抗議行動への参加を理由に2件の有罪判決が下された。
- ・2人が「過激主義」行為への関与を理由に、4人が公務員や政治指導者に対する侮辱等を理由にそれぞれ逮捕された。
- ・親政権 Telegram チャンネルは、反体制運動への関与を疑われた人が拘束され、「懺悔」している動画を合計40件公開。

3/28

- ・人権団体「ヴァスナ(春)」によれば、ブレストで、独立系労働組合 REP のミフニク活動家が家宅捜索を受けた後、逮捕される。理由は不明。
- ・複数の親政権 Telegram チャンネルは、前の週にゴメリ州モズィリ地区で、合計33人が拘束されていたことを発表。

- ・検察は、ウィキペディアでベラルーシに関する項目も執筆しているブレスト在住のパヴェル・ペルニコフ氏を、ベラルーシ共和国に対する名誉毀損で告訴。

3/29

- ・人権団体「ヴァスナ(春)」によれば、3月23日に独立系労働組合「自由な金属関係労働者の組合」のエヴドキムチク副議長が逮捕され、公務執行妨害で裁判にかけられていたことが判明。
- ・検察は、ミンスク州モロデチノ在住の男性をナチズムの復活に関する活動を行っていたとして拘束。

3/30

- ・3月30日までの数日間で、ベラルーシ全国で40人以上の鉄道員が拘束されたことが判明。
- ・ゴメリで4人の鉄道員が拘束され、少なくともそのうち1人は国家保安委員会(KGB)の拘置所に拘禁中。

・アレクセイ・フラロヴィチ元国家保安委員会(KGB)中佐に、国家反逆罪で重禁錮 10 年及び罰金 500 基本単位(16 万ルーブル、650 万円弱)の判決。同氏は 2020 年 11 月に発生したロマン・ボンダレンコ氏の逮捕後の不審死事件の際、エイスマント大統領報道官の通話記録を公開したことで訴追されていた。

4/1

・自身の SNS のプロフィールに白赤白旗(ベラルーシの旧国旗で反ルカシェンコ運動の旗印)とウクライナ国旗を掲載していたカトリックの聖職者が逮捕される。
・人権団体「ヴァスナ(春)」によれば、3 月 25 日に、ストリプリスキー「自由のために」運動(野党)活動家が逮捕されていたことが判明。逮捕理由は不明。

(3/30~4/3 BPN、Zerkalo)

●検察庁、ラトウシコ元文化大臣に約 647 万ルーブル(約 300 万ドル)の賠償請求

・検察によれば、同氏は文化大臣在任中に不必要な映画関係プロジェクトを強行し、231 万ルーブル弱の損失をもたらしたとされる。

・また、(チハノフスカヤ氏が立ち上げた)「権力委譲のための調整評議会」の呼びかけに呼応して集団暴力行為、放火及び財産を破壊したとして 416 万ルーブルの損害賠償を請求。

・ラトウシコ元文化大臣は、検察が一切の証拠を提示していないこと、ビデオ会議を通じた検察との面談を 3 度申し入れているが、検察が断っていることを指摘。

(3/31 Zerkalo)

●国営メディア振興のための広告への課税(3 月 31 日付大統領決定第 131 号)

・屋外広告物や公共交通機関における広告の掲示からは広告料の 10%を、その他の広告の掲示からは広告料の 20%をそれぞれ徴収。

・徴収金は、国営メディア振興のために利用される。

(3/31 大統領府)

【治安・軍事】

●ベラルーシ駐留ロシア軍を巡る動き

(1)ベラルーシ領内でのロシア軍兵士に対する治療
・有志による請願を行うためのサイト Petitions.by は、ゴメリ州ゴメリ、モズィリ、エリスク等の病院で、負傷したロシア兵に対する治療が行われているのかどうか、そうした医療行為にベラルーシ人医療スタッフが関与しているのかどうかという趣旨の照会を发出。

・これに対し、シチェルビンスキー保健省医療支援実施総局長は、医療支援提供の要請そのものが医療上の秘密に該当する旨述べた上で、ロシア兵に対する医療行為の実施は、独立国家共同体(CIS)を通じて締結された国際条約に則って実施することができるとのみ回答。グリデュシコ・ゴメリ州執行委員会(州政府)保健局次長の回答でも、ロシア国民に対する医療行為の実施に関係する国際条約につき言及があったのみで、具体的な言及なし。

・3 月 31 日、カシンスキー国防大臣補佐官(イデオロギー関連活動担当)は、傷病者に対する支援の実施は、広く受け入れられている人としての規範であるとした上で、(3 月 1 日に)ルカシェンコ大統領もロシア軍の傷病兵への治療を実施する旨述べていることを指摘。

(2)ロシア軍を撮影したことを理由にした逮捕

・3 月 30 日、内務省組織犯罪・汚職対策総局 Telegram チャンネルに、IT 関係者の男性の「懺悔」の動画が掲載される。同人は、ゴメリでロシア軍の車両を撮影し、当局から「過激主義」認定されている Telegram チャンネルに投稿しようとしていたと「自白」。

・人権団体「ヴァスナ(春)」によれば、3 月 31 日、ゴメリ州で、ロシア軍の軍用機材の写真を「過激主義」認定されている Telegram チャンネルに送付したとして 43 歳の鉄道員と 30 歳の IT 専門家が拘束された。

・人権団体「ヴァスナ(春)」によれば、4 月 1 日、ゴメリ在住の男性が、駅で軍用車両を積んだ貨車が運行する様子を動画に撮影し、「過激主義」認定されている Telegram チャンネルに投稿したことを理由に、過激主義活動の幫助で刑事告訴された。

(3)ロシア兵による盗品の発送とされる動画の公開

・4 月 3 日、反体制派の「ベラルスキ・ハユン」が

Youtube に、ゴメリ州モズィリ地区のロシア系運送業者 SDEK のライブカメラの映像を公開。

- ・動画には、「ロシア兵がウクライナで盗んだ品を、SDEK を使ってロシアに送る」という題が付いている。
- ・ロシア軍の戦闘服を着た集団が、テレビ、エアコン、バッテリー、酒類等を発送する様子が映されている。
- ・公開から 3 時間後、SDEK は自社サイトでのライブカメラ動画の配信を停止。

(3/30～4/3 BPN、Zerkalo)

●ベラルーシから周辺国への不法移民

リトアニア

- ・3 月 30 日、ビロタイテ・リトアニア内務大臣は、ベラルーシとの国境にたむろする「移民」に関し、ロシア経由でベラルーシに入国している者が増えていること、毎日 10 人程度が確認されるようになっていることにつき指摘。同大臣は、増加は意図的なものかもしれないとした上で、気を抜かずに対応しなければならないと付言。
- ・4 月 1 日、リトアニア国境警備隊は不法越境を試みた 63 人を阻止。4 月 2 日未明には、ベラルーシ側から自動小銃の発射音が 10 件確認された。
- ・リトアニア国境警備隊によれば、2022 年 1 月～3 月のベラルーシからの不法越境の件数は合計 1,147 件。

ポーランド国境警備隊発表

- ・3 月 30 日、99 人が不法越境を試みて阻止される。
- ・4 月 2 日、74 人が不法越境を試みて阻止される。
- ・2022 年初めからベラルーシ側から不法越境の試みは 3,419 件。

(3/30 Zerkalo、4/3 BPN)

●ウクライナでの、ベラルーシからの禁輸品の摘発

- ・ウクライナ国家捜査局 (SBI) は、ベラルーシからウクライナ経由でアジア向けに輸出されようとしていたカリ肥料 7,000 トンを積載した貨物列車 100 両を摘発。
- ・また、ベラルーシからウクライナ経由で北アフリカに輸出されようとしていた金属製品 139 トンを積んだ貨車 2 両も差し押さえ。

(3/29 BPN、Zerkalo)

●ウクライナ空軍が、ベラルーシ領からリヴィウに向けて発射されたミサイル 2 発のミサイルを迎撃したと発表

(3/29 BPN)

●元第一副首相を含むロシア系銀行幹部の拘束

- ・3/29、ロシア系銀行「ベラルーシ対外経済銀行 (Bank BelVEB)」の現在及び以前の幹部ら 8 人が拘束。逮捕者には、マチュシェフスキー頭取 (元第一副首相) も含まれる。

- ・拘束に関する公式情報はなし。マチュシェフスキー氏は翌日に釈放。

(3/29 Zerkalo)

●ベラルーシで通貨偽造が増加

- ・ベラルーシ国立銀行 (中央銀行) は、2021 年にベラルーシ国内で、前年比 32.5% 増の 817 枚の偽札及び 3 枚の偽硬貨が摘発されたと発表。

- ・国内で発見された偽造通貨の数は、偽米ドルは 46.4%、偽ロシア・ルーブルは 30.7%、偽ユーロは 15% それぞれ増加。偽ベラルーシ・ルーブルは前年比 18 枚減。

- ・摘発された偽造通貨の割合は、偽米ドル 54.3%、偽ロシア・ルーブル 35.8%、偽ユーロ 8.4%、偽ベラルーシ・ルーブル 1.1%、その他 0.4%。

- ・偽造通貨が摘発された場所は、首都ミンスク市が 50.1%、各州が 6.6～10.1%。

(3/30 国立銀行)

●ベラルーシ・ロシア両国特務機関による、ラトビア国民に対する勧誘

- ・ラトビア国家保安局は、ベラルーシ・ロシア両国の特務機関が、ベラルーシまたはロシアを訪問するラトビア国民に対する勧誘を試みている旨指摘。

- ・両国特務機関員は、ラトビア国境警備隊員を装って手荷物検査をしたり、越境と無関係な質問をしたり、根拠のない違反を指摘して、次回ラトビア入国時に連絡するようにと特定の電話番号を指定したりする由。

(4/2 BPN)

【経済】

●ロシアによるウクライナ侵略を受けたロシア・ベラルーシ両国との関係停止・撤退の動き

・3月28日、欧州復興開発銀行（EBRD）がモスクワ及びミンスク両事務所の閉鎖を発表。

・3月28日、Bloomberg がベラルーシ・ロシア両国での活動停止を発表。

・3月30日、株価や債券等の金融関係指数を提供する企業である S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス（S&P DJI）は、ベラルーシ・ロシア両国発行の債券を自社の指数から削除する旨発表。ベラルーシの債券では、国営「ベラルーシ開発銀行」発行のドル建て債券が削除対象。

・3月31日、「国家危機管理対策局（ラトウシコ元文化大臣陣営）」は、独ボッシュ（機械、自動車部品、家電等のメーカー）、米シスコシステムズ（コンピュータネットワーク機器開発）、米アマゾン、Geberit Group（スイスの衛生陶器・配管材料等の取扱事業者）、Imperial Brands（英のたばこ等の取扱事業者）、Maersk（海運）、エプソンの各社がベラルーシでの事業停止を決定した旨発表。

（3/28～31 欧州復興開発銀行、Bloomberg、国家危機管理対策局、BPN）

●「ハイテクパーク（情報通信技術・スタートアップ特区）」入居企業からの徴収金の率の引き上げ（3月28日付閣僚会議（政府）決定第178号）

・「ハイテクパーク」入居企業が四半期ごとに同特区事務局に納める徴収金の率が、従来の事業所得の1%から2%に引き上げられる。

・本措置は2022年第1四半期のみの時限措置。

・徴収金は、国家プログラムや社会プログラム実施のために使用される。

（3/30 Zerkalo、dev.by）

●国外の「非就業者」に対する水道光熱・住宅公共サービス料金の扱い（3月25日付閣僚会議（政府）決定第166号）

・就労可能な国民で、就業しておらず、ベラルーシから出国した者は、水道光熱・住宅公共サービス料金

を満額支払うよう求められる。

・療養等の然るべき理由により出国する者で、事前に当局にその旨通報して認められた者は、出国中の支払いを免除される。

・本決定は3月1日から施行。

・「非就業者」の一覧は、当局が四半期ごとに更新。「就労可能な国民で、就業していない」と見なされる者は、水道光熱・住宅公共サービス料金に対する国からの補助が差し止められ、満額を支払わなければならない。

（3/30 共和国法律ポータル、BPN、Zerkalo）

●ウクライナにおけるベラルーシ・ロシア両国所属の鉄道車両の接收

・ウクライナ経済保安庁（ESB）はチェルカシ州で、ベラルーシ・ロシア両国の貨車400両を接收。

・ウクライナ国家捜査局（SBI）はテルノポリ州で、軽油・ガラス・大豆・石灰石・鉄筋コンクリート製品等を積載したベラルーシの貨物84両を摘発。接收に向け、今後手続きが進められる。

（3/31 Zerkalo、4/1 BPN）

●カリ肥料輸出に免許制を導入（3月29日付閣僚会議（政府）決定第189号）

・今後、国営「ベラルーシ・カリ（塩化カリウム採掘事業者）」、「ベラルーシ・カリウム公社（BKK「ベラルーシ・カリ」の輸出部門）」に加え、反独占規制・商業省から免許を交付された事業者も、カリ肥料の輸出に携わることができるようになる。

・輸出を希望する事業者は、輸出見込みや仕向先等を所定の書式に記入して「ベラルーシ・カリ」に申請し、50%の前金支払いと、輸送業者との調整も済ませておく必要がある。

・本決定は4月6日より施行。

（3/31 共和国法律ポータル、Zerkalo）

●ゴロフチェンコ首相は、本年にはロシアから調達する石油及びガスの支払いがロシア・ルーブルでの決済に切り換わる旨発表

（4/2 国営「ベラルーシ第1チャンネル」、Zerkalo）

【抗議勢力の動き】

●人権団体による国連特別報告者への申し入れ

・人権団体「ベラルーシ・ヘルシンキ委員会」は、治安機関による未成年者の公衆の面前での逮捕及び未成年者に強要されている「懺悔」動画に関する情報を、複数の国連特別報告者に送付。

・本件が、被害に遭った未成年者の心的外傷、社会への適合、健全な発育、自尊心等に関わる問題であることを強調。

・関連情報が、ベラルーシに関する国別特別報告者の他、拷問・意見及び表現の自由・身体的及び精神的健康・プライバシーの各特別報告者に提供された。
(3/28 BPN)

●チハノフスカヤ民主勢力代表のエストニア訪問

(4/1)

(1)リーメッツ・エストニア外務大臣との会談

・エストニア在住のベラルーシ人のための査証発給及び e-residency (外国人がエストニア国民として電子登録できる制度)の課題を提起。

・国連安全保障理事会加盟国の非公式会合「アリア・フォーミュラ」の開催に謝意を表明。

(2)ヤーニ・エストニア内務大臣との会談

・ベラルーシ国民に対する査証発給、居住許可、エストニアの e-residency のステータスの課題、またベラルーシ企業のエストニアへの移転の問題について提起。

・ヤーニ大臣は、ベラルーシ国民に対する観光査証発給は中止したものの、人道査証発給は継続している旨述べた。また、エストニア経済省からの然るべき文書を提出すれば、就労査証も発給される。

(3)リンケーヴィチ・ラトビア外務大臣との会談

・リンケーヴィチ大臣は、ベラルーシ国民への観光査証発給の停止はやむを得ない措置であるとした上で、人道査証、政治的抑圧を受けた人々に対する査証、家族の再統合のための査証の発給は継続されること、また人道査証の所有者はラトビアでの居住許可を取得可能になる旨述べた。また同大臣によれば、ベラルーシからラトビアに移転する企業に制限は適用されない。

(4)ル・ドリアン仏外務大臣との会談

・ベラルーシの反戦運動及び対ウクライナ支援、ベラルーシ経由での制裁対象品のトランジットの中止、制裁管理のメカニズムにつき協議。

(5)国際会議への出席

・ベラルーシが事実上ロシアの軍事占領下にあることを改めて強調。

(4/1 チハノフスカヤ氏公式ホームページ、BPN)

●バストゥネツ・ベラルーシ・ジャーナリスト連盟会長がル・ドリアン仏外務大臣と面談

・ベラルーシの非政府系のメディアや社会団体の置かれている状況、人権状況、社会情勢、ウクライナにおける戦争に対するベラルーシ人の見方等を説明。

(4/3 BPN)

【その他】

●リトアニア亡命を求めるベラルーシ人の増加

・リュバエヴァス・リトアニア国境警備庁長官によれば、同国への亡命を求めたベラルーシ人の数は、2022年1月には8人、2月には9人だったが、3月には35人に増加した。

(3/28 Delfi、BPN)

●3月29日、国際バイアスロン連盟(IBU)は全会一致で、ベラルーシ・ロシア両国のバイアスロン連盟のIBU加盟資格を停止

(3/29 国際バイアスロン連盟、BPN)

●国際的な人権団体アムネスティ・インターナショナルが、世界の人権状況に関する年次報告を発表

ベラルーシに関する記述は要旨以下のとおり。

・言論の自由や集会の自由が著しく侵害されている。
・2021年には、記者やインターネットで情報発信している人が多数投獄されており、2021年末の時点で32人の記者が依然として獄中にある。

・ベラルーシ当局により、480以上のウェブサイト、400以上のTelegramチャンネルが閉鎖され、それらの多くは「過激主義」に認定されている。

(3/29 Zerkalo)

●ロシアのロックグループのメンバーの拘束・脅迫・国外追放

・3月30日、ミンスク訪問中だったロシアのパンクロックグループ「プッシー・ライオット」のメンバーであるリタ・フロレス氏が拘束され、内務省組織犯罪・汚職対策総局に連行された。

・内務省職員は同氏に対し、ロシアによるウクライナ侵略を支持する発言の動画、またはルカシェンコ賛美の動画撮影を強要し、応じない場合には禁錮15年の刑やその他の肉体的な制裁を加えると脅迫。同氏はルカシェンコ賛美の動画を撮影させられた。

・その後同氏は国外追放され、ベラルーシへの入国を10年間禁止された。

(3/30 Zerkalo)

●モギリョフ州ボブリススク近郊での鉄道施設を巡る事件

・3月30日未明、ボブリススク地区のバビノ停車場付近のリレーボックス(信号等を制御する電気信号を送る装置を収めた金属製の棚)2つが破られ、そのうち1つが炎上。

・付近を警戒していた内務省国内軍は、犯人らに向けて発砲。

・本件につき、ベラルーシ鉄道も内務省も発表なし。

(3/31 Zerkalo)

●国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)によれば、ロシア軍のウクライナ侵攻開始後(2/24~3/31)、ウクライナからベラルーシに到着した避難民の数は12,746人

(4/2 国連難民高等弁務官事務所、BPN)

●ベラルーシの総人口の減少

・2021年、ベラルーシの総人口は94,121人減少。

・過去5年の総人口(1/1時点)

2022年	9,255,524人
2021年	9,349,645人
2020年	9,410,259人
2019年	9,429,257人
2018年	9,491,823人

・2022年初めの各州及びミンスク市の人口(括弧内は2021年初めの人口)

ブレスト州	1,324,027人(1,338,044人)
ヴィテプスク州	1,103,833人(1,120,364人)
ゴメリ州	1,357,897人(1,375,286人)
グロドノ州	1,006,614人(1,017,976人)
ミンスク州	1,465,755人(1,473,346人)
モギリョフ州	1,000,845人(1,014,843人)
ミンスク市	1,996,553人(2,009,786人)

(3/29 国家統計委員会、BPN)

●オミクロン株 BA.2 系統の確認

・共和国疫学・微生物学センターで恒常的に行われている SARS-CoV-2 の分子疫学調査を通じ、ウイルスのゲノム中に BA.2 系統、いわゆる「ステルス・オミクロン」に特徴的な変異の組み合わせが検出された。

・大部分の患者は軽度の経過を辿ることが指摘されている。また、「ステルス・オミクロン」発症時の症状として、以前の株のような嗅覚喪失の他、喉の痛み、頭痛及び胃腸の不調が多く見られることに注意が必要。

・「ステルス・オミクロン」の症状の重さは従来のオミクロン株と変わらず、追加接種を含むワクチン未接種者に症状が出ている。

・適時のワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保が依然として必要。

(3/31 保健省)

●出入国に関する制限措置の撤廃(3月31日付閣僚会議(政府)決定第197号)

同閣僚会議決定の要旨は以下のとおり。

・ミンスク時間4月3日0時をもって、出入国に関する制限が撤廃され、ロシアを除く陸路での越境が可能となる。

・外国人がベラルーシに入国するためには、引き続き PCR 検査陰性証明書またはワクチン接種証明書が必要。

(4/1 閣僚会議、保健省、4/2 法律ポータル)

●4月1日現在、国民の約60%がCOVID-19ワクチンを2回接種済み

(1)4月3日、タラセンコ保健次官は、国営「全国テレビ(ONT)」のインタビューで要旨以下を述べた。

・4月1日現在、ベラルーシの総人口の約60%がCOVID-19ワクチンを2回接種済み。

・現在、ロシア製ワクチン「スプートニク・ライト」によるブースター接種が行われており、総人口の6.3%が接種済み。

・ベラルーシ製COVID-19ワクチンの生産に向け、生産設備を導入中。不活性化ワクチンとなる見込み。

(2)4月1日現在のワクチン接種状況

ブレスト州	774,300人以上
ヴィテプスク州	709,500人以上
ゴメリ州	814,800人以上
グロドノ州	614,800人以上
ミンスク州	840,800人以上
モギリョフ州	603,000人以上
ミンスク市	1,030,000人以上

・12～17歳の未成年者における2回接種済み人口は、62,900人以上。

・ブースター接種を受けた人は、総人口の6.3%。

(4/1 保健省、4/3 国営「全国テレビ(ONT)」)

(了)